



Data

監督: ヨアヒム・ローニング、エス
ベン・サンドベリ

出演: ジョニー・デップ/オーラン
ド・ブルーム/ハビエル・パ
ルデム/ジェフリー・ラッシ
ュ/カヤ・スコデラリオ/ブ
レントン・スウェイツ/ケヴ
イン・マクナリー

■ショートコメント■

◆ジョニー・デップがジャック・スパロウ船長に扮するシリーズ第1作たる『パイレーツ・オブ・カリビアン/呪われた海賊たち』(03年)が公開されたのは2003年。その第1作は2時間23分(『シネマルーム3』101頁参照)、第2作『パイレーツ・オブ・カリビアン/デッドマンズ・チェスト』(06年)は2時間30分(『シネマルーム11』20頁参照)、第3作『パイレーツ・オブ・カリビアン/ワールド・エンド』(07年)は2時間49分(『シネマルーム15』14頁参照)の大作で、いずれも面白かった。しかし、完結篇になるはずの第3作ではさらに物語が広がり、第4作ともなると、さすがに少し飽きてきたこともあってパス。しかし、シリーズの人気は一向に衰えることなく、莫大な興行収入を稼いできたから、今年の夏は本作が注目を集めることに・・・。

シリーズ第5作となる本作のテーマは、最後の海賊だけが見つけることができるという、ジャック・スパロウ船長が探し求める「ポセイダンの槍」だが、それって一体ナニ? また、それを巡ってどんな人物が登場し、どんな物語が展開していくの?

◆シリーズ第5作となる本作では、第1作から名コンビぶりを見せていたオーランド・ブルームが演じるウィル・ターナーとキーラ・ナイトレイが演じるエリザベスの2人が引退・・・? その代わりに、本作ではブレントン・スウェイツがウィル・ターナーの息子ヘンリーを演じ、モデル出身の女優カヤ・スコデラリオが本作のヒロインとなる、天文学者のカリーナ・スミスを演じている。

他方、ジャック・スパロウ船長のライバルとなる、①「海の死神」と呼ばれるキャプテン・サラザール(ハビエル・バルデム) ②因縁のライバル、キャプテン・バルボッサ(ジェフリー・ラッシュ) ③英国艦隊の司令官らは、本作でも健在・・・?

ジャック・スパロウ船長が探し求めるポセイダンの槍を軸に、この四者が四つ巴の絡みを見せるので、それに注目! さらに本作でも、ラストの字幕が流れ終わった後、シリーズ

第6作の予告となる(?)あるシーンが登場するので、それにも注目!

◆シリーズ第3作となる、『パイレーツ・オブ・カリビアン／ワールド・エンド』について、私は『シネマルーム15』で9頁にわたって詳しく評論している。その時はかなり興奮しながらそれを書いたのでストーリー全体をよく覚えていたが、第4作をパスしたことや、今回はパンフレットを購入していないこと、さらに途中しばらく居眠りをしていたこともあり、本作についての私の集中力はイマイチ。本作の主要登場人物のキャラは大きく変わらないものの、ストーリーは複雑になり、それを整理するのが面倒になっている。

ちなみに、人気シリーズたる本作についてはネット上での情報が多いが、ここではシリーズ全体のストーリー構成についての矛盾を指摘し、その解説を試みているものまでであるからビックリ!その典型はジャック・スパロウ船長が持つ「北を差さないコンパス」(持つ者が欲する物を差す魔法のコンパス)の入手経路を巡る指摘だが、そんな矛盾を1つ1つ追及しても仕方ないのでは・・・?そう思いつつ、他方では、そんな風に手を抜いて見ていると複雑なストーリー展開がどうでもよくなり、とにかく楽しめればオーケーと宗旨変えていくことに・・・。

◆ジョニー・デップは『ローン・レンジャー』(13年)でメチャ面白い味を出していた(『シネマルーム31』238頁参照)。ジャッキー・チェン主演の最新作『レイルロード・タイガー』(17年)は、日中戦争時代の面白い「列車モノ」だったし、『ローン・レンジャー』(56年)もアメリカの西部開拓時代の「列車モノ」で、韓国映画『グッド・バッド・ウィアード』(08年)(『シネマルーム23』122頁参照)や中国映画『女と銃と荒野の麵屋』(09年)(『シネマルーム34』152頁参照、『シネマルーム27』104頁参照)等と並ぶメチャ面白いエンタメ巨編だったが、それらはあくまで単発モノ。それに対して、『パイレーツ・オブ・カリビアン』はジョニー・デップの生命線ともいえるドル箱シリーズになっている。しかし、その物語のポイントをチラシは次の通り要約している。すなわち、

孤高の海賊ジャック・スパロウへの復讐に燃える、海の死神サラザール。
この海賊史上最恐の敵が、禁断の“魔の三角海域”から解き放たれた。
海賊絶滅の危機を止める鍵は、すべての呪いを解く<ポセイダンの槍>と、
その在りかを知る<最後の海賊>のみ…。

しかし、これってどういうこと?これではあまりに抽象的すぎて何も分からないのでは?したがって、何も考えずエンタメ巨編として楽しむだけではなく、ストーリー構成に興味を持つ人は、テレビで放映中のパイレーツシリーズの他作も再度見直しながら本作のストーリーをしっかりと整理したい。

2017(平成29)年7月21日記